

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- *賛美 53番
- *交読文 39番
- *使徒信条 会衆一同
- *頌栄 175番
- 礼拝のための祈り 働き人 川合ゆきえ
- 賛美 102番
- メッセージ サマリヤの女 - 生ける命の水を得るために(ヨハネ 4:15)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 101番
- 献金感謝の祈り パスター
- 報告と歓迎
- *主の祈り 会衆一同
- *祝祷 パスター

祈禱課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

_____はイエスに言った、主よ、_____がかわくことがなく、また、ここにくみにこなくともよいように、その水を_____に下さい。(ヨハネ 4:15)

御霊も花嫁_____も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている_____はここに来るがよい。いのちの水がほしい_____は、働なしにそれを受けるがよい。(黙示録 22:17)

その日_____は言う、「主よ、_____はあなたに感謝します。あなたは先に_____にむかって怒られたが、その怒りはやんで、_____を慰められたからです。見よ、神はわが救である。_____は信頼して恐れることはない。主なる神はわが力、わが歌であり、わが救となられたからである」。_____は喜びをもって、救の井戸から水をくむ。その日、_____は言う、「主に感謝せよ。そのみ名を呼べ。そのみわざをもろもろの民の中につたえよ。そのみ名のあがむべきことを語りつげよ。(イザヤ 12:1-4)

今回は、イエス様がサマリヤを通られた時、ヤコブの井戸で出会った一人の女について見て行きたい。彼女は正午頃、井戸に水を汲みに来ていた。砂漠がちなパレスチナ地方で正午頃は、暑く過酷な時間で、誰も好き好んでそんな時間に出歩かないものだが、彼女がその時間に行き来したのは、事情があった。彼女はかつて、5人の男と結婚してことごとく失敗し、今、6人目の男と同棲している。その”負の実績”故に、誰かとも出会う事を避けるため、わざわざその時間に、同棲相手のために水を汲みに行っていったのだ。いつまで続くとも知れぬ、そのような日々の中、彼女はいつも通り、昼の暑い時間に井戸に来たのだが、その日は、気まづい事に、一人のユダヤ人の男性が座っていた。しかしそれは、実は、イエス様だった。彼は、彼女に声をかける。水を飲ませてください、と。それは意外な事だった。ユダヤ人とサマリヤ人は、選民と異邦人、尊い民と卑しい民、付き合いは無い筈なのに、彼のほうから、関係を求めて来たのだ。イエス様は、救いからは程遠いような私達・異邦人にも、声をかけて下さる。飲ませてくれないか、と。

「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願ひ出て、その人から生ける水をもたらすことであろう。(10節) 彼女は怪訝に思った。この男は汲む物は持たず、井戸は深い。どうやって汲むというのか。また彼は、イスラエル民族の父祖・ヤコブが自分達に与えてくれた水よりも優れた、「生ける水」を与えてくれる、という。ヤコブの井戸は、水はもう湧き出さず、時折降雨雨水を溜めるだけのものだったようであるが、人は、いかに大きな井戸を掘り、いかに多く貯めようと奔走するが、それは結局、壊れた水溜めである(エレミヤ 2:13)。この女が、結婚や安定、異性という「水」によって、渴きを癒やそうとしていたように、人は色々な「水」で渴きを癒やそうとするが、世の水は、飲めばまた渴し、第一天から恵みの雨が降らなければ水は溜まらない。イエス様は言われる。『しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。』(14節) この女も、ひどく渴いていた。過去、失敗して来た自分自身に、人目を憚って暑い日差しの中、毎日汲みに来なければならない毎日に。今一緒にいる男との将来への不安に。そこで『女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくともよいように、その水をわたしに下さい。』(15節)

主イエス様に助けを求める事こそ、全ての問題解決の糸口であり、イエス様に”飲ませる”事である。イエス様が十字架上で「わたしは渴く」と言われた時、人は、酸いぶどう酒を飲ませた。主がそれを受けた時、「完了した」と言って息を引き取られた。(19:30) 私達も、自分の人生の酸いぶどう酒を、十字架のイエス様に飲ませる時、それは十字架上で完了し、私達には、復活のいのちの水がほとぼり出るのだ。主は、彼女の問題の本質へと、直球を投げた。「あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい」。イエス様が彼女の問題の本質を言い当てた(18節)ように、主は私達の問題の本質も、全てご存知である。異性、結婚、金銀、仕事など世のものに潤いを求めて飲めば飲む程、人は渴いて行く。まことの泉なる主から目を反らし、あくまで世の「水」を求め続けるなら、渴きは癒やされず、ますます渴き、それを手に入れるため奔走する過程で、さらに失敗や恥、人への迷惑という”負の実績”も積み上げて行く。しかし、それら全て負の実績をイエス様に持って行くなら、彼にあって神の栄光を現すものに大逆転する。

彼女は、水汲みをして来た水がめをそのままそこに置いて、町に行き人々に伝えに行つた。自分の全てを言い当てたイエス様を。もはや彼女が過去に負った”負の遺産”はイエス様の栄光を現すネタへと変わり、世の何物も満たすことの出来なかった渴きは、主イエス様にあって癒されたのだった。彼女は、キリストと呼ばれるメシヤがこられ、その方が私達に一切の事を知らせて下さる事を知り、普段から期待していた(25節)。だからこそ、主は、あの井戸の所に来て、彼女を待っていて下さったのだ。私達も、イエス様に救いを求め、期待すべきである。自分の水がめからイエス様に飲ませ、その重い水がめはイエス様の足元へと下ろすべきである。その時、私達は救いの泉から喜びながら水を汲み、全て負の遺産は主の栄光を現すものと変えられ、世に出て行き、語り継いで行くのだ。(イザヤ 12:3)

横浜天声キリスト教会

礼拝 週報

集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → <http://ustre.am/Ydeh> (Yは大文字)

日曜礼拝

1部礼拝	10:30
食事/フェローシップ	12:00～
2部礼拝(韓国語通訳有)	14:00
聖書の学び会(詩篇)	15:00

金曜徹夜祈祷会 21:00～

日々の集会

月～金	早天祈祷会	5:00～
火・木・金	賛美と祈りの集会	13:00～
火～木	夜の祈祷会	19:30～

水曜集会

1部	13:00～
2部	19:30～

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分
JR・関内駅より徒歩10分
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で
聖書メッセージをメールで
毎日携帯にお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201

TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: ephes_03-tensei@yahoo.co.jp



モバイルサイト

